

	号外	定価 1部2円	職場改善の切実な 実態や声を突き付 け、11月11日の 県職労総務部長交 渉で前進回答を実 現させよう。
	昭和34年4月1日 第3種郵便物認可	発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合	

2022確定闘争⑤ ヤマ場・11.4県職労人事課長交渉

当局は現場実態を見て改善を！

人員確保 現場の話を聞きながら適時適切に検討 超勤課題 年度内の予算所要額の確保に向け精査中

11月4日、県職労は賃金等の地公共闘課題の確認のほか、人員確保、再任用職員の処遇改善、超勤課題をはじめとした独自課題の改善に向け、ヤマ場となる人事総括課長交渉を行った。県職労独自課題に係る交渉結果は、次のとおり（地公共闘共通課題は11月7日赤枠号外第2645号を参照）。



前進回答を求める県職労交渉団

【交渉結果】①通勤手当に関し、「手当額のカバー率が100%を下回っている概ね片道40km以上について、手当額を引き上げる方向で検討中」とし、自転車・バイクの区分細分化については「全国でも大多数が支給区分を分けている」との説明に終始。交渉団から公共交通網の不便さ

や駐車場代負担等の事情からバイク等で通勤している実情を訴え、再考を求めた。

②人員確保に関しては「今後もあらゆる手段を講じてマンパワー確保に取り組む」との姿勢にとどまったことから、次回総務部長交渉で、次期定数計画の方向性、来年度の採用見通しなどを踏まえた具体的な人員体制の改善策を示すよう強く求めた。

③超勤課題に関し、「各部局からのヒアリングをもとに超勤の現状、今後の見込みを聴取している。超勤予算の年度内所要額の確保に向け精査しているところ」との姿勢を示したことから、超勤予算不足による不払いが起こらないよう、実態に即した予算の確保を強く求めた。

多くの職場課題について、従前の回答の域を超えるものはなく、依然として改善が期待できる内容とは程遠い。最終局面となる11月11日の総務部長交渉での前進回答を強く求めた。



回答する加藤人事課長

(交渉詳細は裏面)

1 通勤手当（ガソリン価格反映、支給額区分見直し）

（県 職 労）オートバイは自動車の手当額の2分の1、自転車はオートバイの最低額と同額とのことだが、バス通勤しようとする朝の出勤時間が早すぎる。実費を主張するのであればパーク&ライドや高速料負担も見直すべき。車は家族で1台しかなく、やむなくバイクを購入したり自転車通勤としているケースもある。そうした実情にも配慮すべき。

（人事課長）東北では本県のように交通用具を一本の支給区分としているところはなく、全国でも大多数が支給区分を分けている。パーク&ライドについては、今回の勧告でも言及されていないほか、他県においても導入は少数。手当支給の在り方として適切かどうか、その都度その都度、検証しながら見直していくことが必要と考える。



通勤実情を訴える高谷中執

2 人員確保

（県 職 労）業務量が減少しない中で会計年度任用職員を減員する考え方は改められたい。会計年度任用職員を減員するのであれば一般職員を増員するなど、現場実態に見合った人員配置を強く求める。

（人事課長）常勤職員も含めた全体の職員数については、各部局や現場の話をよく聞きながら、適時適切に検討していく。

3 超過勤務課題

（県 職 労）超過勤務の予算確保にあたり、各課と企画室のやり取りの中で、人事課の納得する理由をださなければならないと言われる。実態をあげる以外の何かがあるのか、説明を。

（人事課長）補正理由を明確にするようにとの意味。超勤が発生した分について手当を支払うのは当然のこと。超勤理由がおかしいから支払わないという解釈があるとすれば、それは本意ではない。



超勤課題等の問題点を指摘する藤村中執

4 再任用職員の処遇改善

（県 職 労）定年前と働き方が変わらないのであれば、現行の再任用職員も定年引上げ後の暫定再任用職員と同様に、2023年度から格付けの見直しが必要と考えるが見解は。

（人事課長）職員の格付けについては、基本的にその業務内容を踏まえたものとしている。上位格付けとなるべき業務内容変更がない限り来年度の再任用職員の格付けも変更はない。初めて60歳以上の定年前職員が生じる2024年度以降の配置に向けて、（後輩人材育成等の）業務内容・格付けの詳細について検討を進めていくことになる。

滝沢市長選挙『主浜りょう』県職労推薦

県職労は、11月13日投開票の滝沢市長選において、県退職者会副会長を務める「主浜（しゅはま）りょう」（72歳、現1期・無所属）さんの推薦を決定しています。